

さあ、今回もやってきました！！坂井先生のコラムの時間です！！

いや～、毎回面白い。「あ、そうやった、そうやった」と思い出したり、「なるほど、こうすれば良いんや！」と発見があったり・・・なにかと為になります。

今回もわかっているようでわかってなかった事かも知れませんね～・・・皆さん、わかるように伝えてます？

第3回『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

2、わかるように伝える

自閉症や発達障がいのある人が理解できるようにするために、視覚的な情報を使えばよいと言う事は前回述べました。

視覚的にもわかりやすく伝える方法の1つに構造化というものがあります。

構造化することによって「いつするのか？」「どこでするのか？」「何をするのか？」「いつまでするのか？」「終わったら何があるのか？」ということを知りやすく伝えるということです。

構造化には、「物理的な構造化」、「視覚的な明瞭化」といったものがあります。以下に紹介するのは、構造化のアイデアを取り入れたものの例です。

写真1は、買い物をするという活動の手順表です。買い物の手順を視覚的にわかりやすく示すことで、一人でお店に行き、買い物の手順を理解して買い物が出来るように考えたものです。

写真2は残りの時間をわかるように伝えるための道具で、タイムエイドと呼ばれているものです。残りの時間を光の数や、扇形の面積で知らせてくれるので、視覚的にもわかりやすく知らせることができるよう工夫されたものです。これならば、時計の針から時間を読み取る事ができなくても、残された時間に見通しを持つことができる人もいないのではないかと思います。

構造化のアイデアを取り入れた支援をするうえで知っておかなければならないことは、「構造化された環境がなくても活動できるようにする」ということを目指すものではないということです。例えば、先の買い物を例に挙げると、手順表を使わなくても買い物ができるようにと発想するのではなく、このような手順表を活用しながらでも、いろいろな場所で買い物ができるようにと発想することです。買い物の手順がわかれば一人で買い物をする事ができるようになるからです。

また、手順表の有無にかかわらず、買い物ができるかどうかの方が「自立」するうえでは重要であるというように考えるということなのです。時計の場合でいうならば、一般的に使われている時計から時間を読み取る事ができなくても、タイムエイドを使うことができるならば、それもひとつの方法と考えると言うことが大切なのです。何もわかっていない状況で、周囲の人がその子を鍛え上げてできるようにするという発想ではなく、わかるように伝える為に構造化するという事と、場合によっては、それらを自分の力で使うことができるようにしていくという発想をもって、支援していくことがとても大切なことであると思うのです。



写真1、買い物の手順表



写真2、タイムエイド

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞(著書)

暮らしの中のコミュニケーション(やまびこの里) クラスルームコミュニケーション(こころリース出版会)

自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア(エンパワメント研究所)など